

創刊号

放射線技術科支部会誌

Vol. 1



川崎医療短期大学同窓会

Content 〈目次〉

同窓会誌発刊にあたり	末森 慎治	1
創刊号によせて	小郷 正則	1
放射線技術科支部会誌創刊に寄せて	西下 創一	2
中央放射線部の近況	日地 啓夫	3
卒業生の皆さん、お元気ですか！	西村 明久	4
本業ボランティア	村中 明	4
同窓会誌発刊にあたり	板谷 道信	5
同窓会誌発刊にあたり	紺野 勝信	5
同窓会誌発刊に感謝	井上 博和	6
「 ^{いちがん} 一丸」	北山 彰	6
同窓会誌発刊にあたって	荒尾 信一	7
同窓会誌発刊にあたり	天野 貴司	7
トピックス		8
放射線技術科支部規約		9
放射線技術科支部会員名簿		12
編集後記		

同窓会誌発刊にあたり

放射線技術科支部長

末 森 慎 治（1期生）

放射線技術科同窓生の皆様には、お変わりなくご健勝でご活躍の事と存じます。皆様には日頃より同窓会の発展のために、ご協力とご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

思えば今春、卒業生を世に送り出して13年の歳月が流れ、686名の多くが、それぞれの職場で活躍されています。放射線技術科支部の活動の中に於いては支部会誌の発行、各地域支部の活動の奨励および援助、会員の就職援助など何点かの重要な項目があります。今回、その一つの会誌の発刊ができますことは大変喜ばしいことです。今後ともこの会誌が皆様の活動に役立つように内容を充実して行くつもりですので、何卒、皆様からの情報をお寄せ下さいますようお願い致します。

また、現在、放射線技術科支部の地域支部として活躍しています九州、山口地域の倉友会の皆様にはこの会が益々発展して実りある会となりますよう心からお祈り申し上げます。と共にこの会に続く第2、第3の地域支部ができますよう願っています。どうか皆様のご協力とご支援のほど宜しくお願い致します。

創刊号によせて

川崎医療短期大学松丘会

会長 小 郷 正 則

放射線技術科支部会員の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。また、平素より、松丘会発展のため格別のご協力とご支援を賜り心より厚くお礼申し上げます。

この度、役員の方々のご尽力により、秘書科の『MS Life』、検査科の『PIPETTS』、栄養科の『だいえっと』に続き、放射線技術科支部が会員相互の緊密な情報交換のため、会誌を発刊する運びになりましたこと、重ねてお喜び申し上げます。

先日、末森支部長さんより山口・九州地区出身者で結成している支部同窓会では、会員の約75%が出席し、卒後教育や母校の事など、会員相互の研鑽をされたとお聞きしました。素晴らしい同窓生の結束のたまものです。

このように活躍している場の近況報告や母校に対する注文など会員相互の連絡網としての会誌作りをして欲しいと願っています。

なお、放射線技術科支部の益々の発展と会員の方々のご活躍を応援しております。

放射線技術科支部会誌創刊に寄せて

川崎医療短期大学放射線技術科

主任教授 西 下 創 一

この度、川崎医療短期大学の放射線技術科支部では支部会誌のご創刊、誠におめでとうございます。この創刊号への寄稿のご依頼を受け、大変光栄に存ずる次第です。

昭和52年4月、川崎医療短期大学の中に、放射線技術科が新しく開設され、第1期生が入学して来た。この放射線技術科は診療放射線技師という医療従事者の養成を目的としているが、国家試験に合格して診療放射線技師として社会に出たとき、直ちに実戦に役立つような優秀な技師を養成する必要があった。幸い教員スタッフも優秀な人材を揃えることができ、また学生の方も全国より優秀な若者が集まって来て、この放射線技術科は順調なスタートを切った。しかし、わずか3年間という非常に短い教育期間であるので、極めて苛酷なカリキュラムが組まれた。即ち、基礎医学、生物学、基礎理工学、放射線専門技術学などの学内教育の殆どは第2年次の1学期で履修してしまい、2学期から第3年次の1学期までの1か年間を病院実習に充当した。しかし、第1期生はこの苛酷なカリキュラムによく耐え、昭和55年3月には無事巣立って行き、更に国家試験の合格率は抜群の成績であった。

この第1期生が卒業と同時に放射線技術科の同窓会を発足させ、更に、平成2年には、末森慎治氏が支部長となり放射線技術科支部が結成されたと聞いています。そして、この度、第4期生の黒住晃氏が編集委員長となり支部会誌が創刊されることとなり、小生には放射線技術科の近況等について寄稿するよう依頼されました。

近況といえば、先ず、今春卒業した第13期生の国家試験の合格率が、全国平均よりも劣るほど、極めて不良であったことである。これは非常に不名誉なことであり、本学科の伝統に汚点を残したことになる。この原因は学生および教員の両者共にあると思われる。最近の本学の学生は、低学年の時より怠惰で基礎的知識に欠け、高学年になっても本来の学力に達していない。また、教える教員の方は、毎回、短大紀要などに立派な研究論文を掲載して、極めて研究熱心で非常に感心しているが、反面、学生の教育に関しては、若干努力不足があったのか国家試験に出題されるレベルまで充分教えていない。これは全てが小生の監督不行届きと深く反省している次第です。今まで小生は、医科大学、附属病院などと併任であったが、本年度よりはこれらをすべて定年退任し短大の専任となったので、これからは名誉挽回のため粉骨砕身して努力する覚悟です。何卒、同窓の皆様方のご指導ご鞭撻を賜り、この支部の今後の益々のご繁栄をお祈りして擱筆します。

中央放射線部の近況

川崎医科大学附属病院中央放射線部

技師長 日 地 啓 夫

このたび放射線技術科支部の会誌を発行することになったので「中央放射線部の近況」を書いてくれないかと、支部長さんから原稿の依頼を受けたので仕事の合間にいろいろなことを思い出しながら筆をとっている。

創刊号が発行されるということは当短大の放射線技術科も、いよいよ何とか成人式を迎える年頃になったのかと、また考えもひとしおである。それもそのはずである今年入学してきた学生が第16期生であるから、第1期生の諸君が入学した頃は彼等はまだ生まれたばかりの1～2歳の幼児であったということになる、その間大きく時代が変化したのも当然である。

放射線の分野においても以前は診断、治療、R Iと型どおりのものであったが、最近ではC TやMR Iが出現してきて、多くの病院ではそれには時々このように時代にあったカリキュラムを変更したり、また先生と実習生とのコミュニケーションをはかりながらの教育に心掛けているせいもあると思うが、やはり卒業生自身が川崎医療短期大学の看板に泥を塗ってはならないと懸命に努力しているからではないかと思う。

私は年に3～4回学会に行くが、それは当院の学会発表を聞くことももちろんであるが、卒業生の発表を聞くのも楽しみの一つである。これらの発表を聞くと卒業後も仕事の合間をぬって頑張っているなど思うのである。

私はまた学会場や展示場などでよく卒業生から声を掛けられる。私の頭に特徴があるから目立つのかもしれないがとても嬉しい。そして昔話に花が咲く。そんなとききまって最後に「私

は川短を卒業してほんとうに良かったなと思っています、学生時代は大変厳しかったけれど他の学校を出た同僚の話を聞くとこんなに先生方と学生が一体となって3年間を過ごした学生は少ないですよ」と言う。

こんな言葉を聞くと私達も、もっともっと頑張らなければという気になる。どうか卒業生の皆さんも体に気を付けてこれからも頑張ってください。

卒業生の皆さん、お元気ですか！

——同窓会誌発刊に寄せて——

川崎医療短期大学放射線技術科教授

第1期生担任 西村 明久

創刊号発刊おめでとう。同窓生、皆さんの学科は昭和52年4月開設、56年に教育課程の改正のもとで診放技師教育16年目（第16期入学生）を迎えました。この15年で放射線技術の多様化とその発展はめざましいものがあり、それに伴い技師教育にも新しい高度な教科の導入を必要とする時代になって来ました。高度化した医療の現実に十分応えられる技師を3年間で養成するには、どのような教育が最も効果的であるのかが大きな課題です。幸い学内の実験設備・スタッフだけでなく、学園には川崎医大附属病院の実験・実習施設および有能で熱意ある指導講師が全面協力してくれて居ります。

新卒の諸君には本当の勉強はこれから始まると覚悟して努力して頂きたい。先輩諸氏にはこの若者達の向学心をさらに発展させるよう厳しい温かい御指導をお願い致します。

この会誌が卒業生同志の心を結ぶ絆きずなとなると共に、あとに続く後輩のために力強い指標となり、私達教師にとって大きな励ましの指令となる事を期待しています。

（最近の動き：川崎学園の将来構想によっては、4年制大学さらに大学院での診放技師教育の実現に向けて検討されるかも知れません。皆さんの社会的レベル向上のためになれば幸いです。）

本業ボランティア

川崎医療短期大学放射線技術科助教授

第9期生担任 村中 明

ある講演会の席で「本業ボランティアのすすめ」という話を聞いた。ボランティアと聞くと、時間と能力の余力のある人のすることだと日頃から敬遠しがちな自分にとって、この言葉は新鮮で大いに共感もてた。つまり、ボランティア精神とは、自発的に、無償で、世のため人のため、先駆的にということであり、必ずしも本来の仕事以外の活動をしなければならないということではない。むしろ、先ず自分自身の身近で専門的な本業やその関連した事柄にこの精神を大いに発揮するべきだということである。

この度、同窓会放射線技術科支部の会誌が発行されることになり大変喜んでおります。この活動にも、編集委員をはじめ会員一人一人の「本業ボランティア」精神が発揮され、今後大きく発展することを心から期待しております。

同窓会誌発刊にあたり

川崎医療短期大学放射線技術科講師

第2, 5, 10, 14期生担任 板谷道信

686, これは平成4年3月現在の放射線技術科の卒業生の人数です。13回の卒業で本科を巣立っていった諸君もベテランの中堅として医療の現場で活躍する人, ようやく職場に慣れた人, 結婚し家庭に入った人, 違う職種で頑張っている人など様々だと思います。

初めて推薦入試を実施し一般入試を合わせて約300人の中から選考した16期生が4月に入学し, ついに男女比が逆転しました。わずかな入学希望者で女性も少なかった1期生の頃を思うとまさに昔日の感が有ります。

放射線技術科発足と同時に着任した最年少教員の私も, 4回目の担任として現3年生の指導を行っているところです。

最近, 卒業生の特に医療での現場での実体験や経験を後輩の教育に活かすべきであり, 卒業生のネットワークの充実が卒業生・在校生・教員にとって必要だと痛感しています。

従って今回の同窓会誌発刊は, 時を得ており誠に有意義なものであると期待しています。

同窓会誌発刊にあたり

川崎医療短期大学放射線技術科講師

第3, 6, 11, 15期生担任 紺野勝信

放射線技術科支部会誌が発刊されるということで, 誠におめでとうございます。

この様な同窓会誌は皆が待ち望んだものではなかったでしょうか。

同窓会の目的のひとつに, 同窓生同士や大学との親睦, 情報交換を通して互いに向上発展していこうというものがあると思います。文章・紙面での情報交換は, 人と人が直接会う同窓会の会合とは一味違うものであり, 情報の多面性ということで, 好ましいものであります。いわば, 組織に酸素と栄養物を補給する血管がまた増えたことを意味します。

日常生活で, ある情報や人を知っていると, いないとでは大違いということはよく経験します。また, 色々な人々を知っているということは, 何にも得難い楽しみであります。

その様な意味で, またひとつ楽しみが増えたと, ひとり喜んでおります。

同窓会誌発刊に感謝

水島協同病院放射線科

第4,7期生担任 井上博和(1期生)

思い起こせば、川短・放射線技術科を卒業して、はや12年が過ぎ、学生時代の記憶も色あせてきつつある此頃です。

しかし反面、懐かしさは年ごとに増して懐古主義にとらわれております。

私の場合、卒業して川短に残り職業人の第一歩を記した訳ですが、その折、同窓会発足という任務を授かりました。

その後、同窓会の組織強化、同窓会新聞の発刊等の課題が生まれ、メンバーで議論を重ねた事を思い出します。

しかし、私自身の指導性の欠如と、「会」の重要性の認識不足のため、ご迷惑をお掛けしたことを、心よりお詫び申し上げます。

よって、この度、同窓会誌を発刊されるとの吉報に心より感謝するとともに、救われた想いも致しております。

冬期医療時代ですが、共に頑張りましょう。

いちがん
「一丸」

川崎医療短期大学放射線技術科講師

第8,12期生担任 北山 彰(1期生)

川崎医療短期大学同窓会(松丘会)の各科支部の一つとして発足した放射線技術科支部も今年で13年が過ぎた。人にたとえるなら中学生である。そろそろ同窓会として大人にならなければならないような気がする。「何をしたらよいのだろうか?」「何を計画したら同窓生のみんなが興味を持ち、喜んで参加してくれるだろうか?」といつも思う。また、卒業生のみんなが同窓会に持つイメージもさまざまであると思うが、卒業後10年を過ぎた人達は何か同窓会に期待するものがあるのではないかとも思う。「何をしようか?」何か行動をおこそうとすると、人力、時間、金などの障壁もあるが、この度の会誌発行は同窓会としての大きな一歩であると思う。連絡が取れる、みんなが意見を言える、まずはこの会誌の下で一丸となりたい。この会誌が楽しく、同窓生の期待に沿えるものに成長するために、みなさんの同窓会への理解とご協力をお願いいたします。

同窓会誌発刊にあたって

川崎医療短期大学放射線技術科助手

13期生担任 荒尾 信一（8期生）

川崎医療短期大学同窓会（松丘会）放射線技術科支部も第13期生を迎え、いよいよ700名を超えようとしており、今回の同窓会誌発刊は、会員相互の結びつきをより一層強め、また母校や同窓生の近況を知る意味においても大いに役立つものと思っています。

今年は、同窓会の本部の方では、会員名簿の販売を実施し、約400名（内、放射線技術科会員69名）の方が購入されました。私も本部の理事として名簿編集の仕事をしているのですが、今回、各期代議員の方に調査をお願いしたところ、現在の住所等が不明の会員が数10人残ってしまいました。今後の支部、強いては本部の発展の為にも、会員の近況を把握することは、必要不可欠であると思います。もし何か本人、知人の間で変更点がありましたら、各期代議員または支部まで御連絡下さる様、切に願っています。

同窓会誌発刊にあたり

川崎医療短期大学放射線技術科助手

16期生担任 天野 貴司（11期生）

放射線技術科支部発足後13年が経ち、今回同窓会誌を発刊するにあたり、投稿依頼をうけ、たいへん光栄に思っています。私は放射線技術科を平成2年3月に卒業し、現在は第16期生（現1学年）の担任として、学生指導・教育を行っております。3年後には学生たちも卒業・就職し、支部会員になるとともに、卒業生の方々のお世話になることと思いますので、よろしく願いいたします。

医療技術の進歩に伴い、益々卒後教育が重要になってくると共に、卒業生同志のつながりによる情報交換も必要となることでしょう。そういった意味において、同窓会会誌が情報提供の場として利用されれば、と私自身が思っています。

これからの同窓会・支部会の発展・充実と共に、卒業生の方々の益々の御活躍を期待しております。

トピックス

〔人事〕西下創一主任教授は、平成3年度末をもって医大の放射線医学教室を御退官された。今後は短大の専任主任教授として勤務、御活躍される。

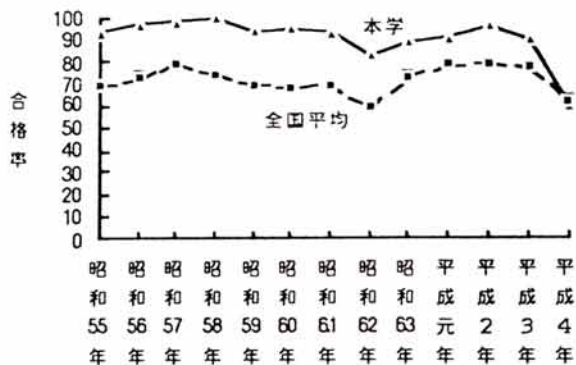
〔卒業〕平成4年3月、放射線技術科第13期生が卒業した。これをもって本科の卒業生数（同窓会放射線技術科支部会員数）は686名となった。また、平成4年度卒業予定者（第14期生）数は53名で出身県の内訳は以下のとおりである。

出身県	男	女	計	出身県	男	女	計	出身県	男	女	計
岡山県	5	7	12	宮崎県	1	1	2	鳥取県	1	0	1
広島県	4	4	8	兵庫県	2	0	2	愛媛県	1	0	1
福岡県	3	3	6	高知県	2	0	2	熊本県	1	0	1
鹿児島県	2	2	4	福島県	1	0	1	大分県	0	1	1
山口県	3	0	3	石川県	0	1	1	鳥取県	0	1	1
長崎県	2	1	3	大阪府	1	0	1	合計	31	22	53
滋賀県	1	1	2	奈良県	1	0	1				

〔設備〕平成3年度私立大学「特色ある教育研究」特別補助金を受けて「医用画像処理システム一式」が設置された。このシステムは医用画像情報をカメラ、スキャナ、ディスクなど介しマイクロコンピュータに取り込み種々の画像処理を行うものである。

（副支部長 荒尾 信一）

〔国試〕平成4年度第44回診療放射線技師国家試験の本学成績は、合格率60.0%（全国平均61.9%）であり、開学以来初めて全国平均を下回った。来年の活躍が期待される。



〔入学〕平成4年度入学生として第16期生を迎えた。本学科始まって以来初めて男女比において女子が勝った。（男27名，女29名）

川崎医療短期大学同窓会（松丘会） 放射線技術科支部規約

（名称および事務所）

第1条 この支部は川崎医療短期大学同窓会（松丘会）放射線技術科支部（以下、支部という）と称し、川崎医療短期大学同窓会（以下、松丘会という）会則第12条に基づいて設置する。

第2条 この支部の事務所は川崎医療短期大学内に置く。

（目的）

第3条 この支部は、支部の会員相互の親睦を図るとともに、松丘会および川崎医療短期大学放射線技術科の発展に寄与することを目的とする。

（会員）

第4条 この支部の会員は、普通会员および特別会員とする。

(1) 普通会员

川崎医療短期大学放射線技術科卒業生

(2) 特別会員

川崎医療短期大学放射線技術科教職員およびかつて教職員であった者で入会を希望した者

（事業）

第5条 この支部は、第3条の目的達成のため次の事業を行う。

(1) 各期、各地域支部同窓会活動の奨励および援助

(2) 支部会員および新卒者の就職援助

(3) 支部会報の発行

(4) その他、必要と認められる事項

（役員）

第6条 支部に次の役員を置く。

(1) 支部長	1名	(2) 副支部長	若干名
(3) 代表者	若干名	(4) 運営委員	若干名
(5) 会計	1名	(6) 監査	2名

2 支部長は、松丘会支部長があたる。

3 副支部長は、松丘会理事および普通会员より支部長が委嘱する。

4 代表者は、松丘会代議員および地域支部長があたる。

5 運営委員および会計は、普通会员より支部長が委嘱し、他の役員を兼ねることができない。

（役員の仕事）

第7条 役員の仕事は次のとおりとする。

支部長 支部を総括する。

副支部長 支部長を補佐し，支部長に事故あるときはこれを代理する。

代表者 各期，各地域を総括する。

運営委員 会務を処理，遂行する。

会計 金銭の収支および会費徴収にあたる。

監査 支部の運営および会計財務の監査を行う。

(役員任期)

第8条 役員任期は5年とする。ただし再任は妨げない。

(会議)

第9条 この支部の会議は代表者会および運営委員会とし，各必要に応じて支部長が召集する。

2 代表者会は，支部規約の改正および重大事業計画など重要事項を審議し，出席者の半数の同意をもって決議することができる。

3 運営委員会は，会務を処理するための必要事項を審議する。

(経費)

第10条 この支部の運営に要する経費は，支部会費，松丘会支部援助金，寄付金およびその他の収入をもってこれに充てる。

(支部会費)

第11条 支部会費は，普通会员より必要に応じて徴収し，特別会員からは徴収しない。

第12条 支部会費徴収については代表者会において審議する。

(地域支部)

第13条 支部の目的達成のために代表者会の承認を受け，地域支部を設立することができる。

2 各地域支部は，本支部に協力を要請し援助を受けることができる。

(義務)

第14条 会員が氏名，住所および勤務先を変更した場合は，速やかに変更届を支部事務所または松丘会事務所に提出しなければならない。

(附則)

この会則は1990年4月1日より施行する。

松丘会 放射線技術科支部 役員一覧

支部長	末 森 慎 治	(松丘会支部長	川崎医科大学附属病院	0864-62-1111)
副支部長	荒 尾 信 一	(松丘会理事	川崎医療短期大学	0864-62-1111)
代表者	松 田 英 治	(第1期代議員	川崎医科大学附属病院	0864-62-1111)
	三 村 浩 朗	(第2期代議員	川崎医科大学附属病院	0864-62-1111)
	今 井 章 人	(第3期代議員	岡山済生会病院	0862-52-2111)
	人 見 剛	(第4期代議員	川崎医科大学附属病院	0864-62-1111)

鳩 場 祥 雅	(第 5 期代議員	佐藤記念病院	0868-38-6688)
引 野 元 裕	(第 6 期代議員	松田病院	0864-22-3550)
池 長 弘 幸	(第 7 期代議員	川崎医科大学附属病院	0864-62-1111)
赤 澤 裕 二	(第 8 期代議員	川崎医科大学附属病院	0864-62-1111)
川 崎 晋 禎	(第 9 期代議員	岡山旭東病院	0862-76-3231)
吉 田 耕 治	(第10期代議員	川崎医科大学附属病院	0864-62-1111)
松 井 香 樹	(第11期代議員	岡山川崎病院	0862-25-2111)
角 場 幸 記	(第12期代議員	川崎医科大学附属病院	0864-62-1111)
大 谷 典 弘	(第13期代議員	自 宅	0864-82-2950)
小 川 正 人	(倉友会地域支部長	産業医科大学	093-603-1611)

編集後記

お忙しい中、原稿を書いて下さった先生方、深く感謝いたします。どうもありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

さて、会誌の名前と原稿を広く募集します。原稿につきましては、内容は自由です。職場紹介、体験談、近況報告、母校への希望、質問、相談、各期での同窓会のお知らせ、その他身近なニュース、旅行記、随筆 etc. 匿名希望でも結構です。他に御意見、御感想をお寄せ下さい。

今後とも、この会誌が皆様の情報交換の場として、あるいは会員相互の親睦を深める場として、お役に立てば幸いです。

— 宛先 —

〒701-01 岡山県倉敷市松島577

川崎医科大学附属病院 中央放射線部

末 森 慎 治 行

1992年7月1日 発行

編 集 黒住 晃 (4期生)

編集発行 川崎医療短期大学同窓会 (松丘会)

放射線技術科支部

〒701-01 倉敷市松島316

☎0864-62-1111(3050)

印 刷 西日本法規出版(株)

〒700 岡山市高柳西町1-23

☎0862-55-2181(代)